

相場の転換点はいつか?

円 高ドル安圧力がまたもや高まっている。8月上旬以降、北朝鮮情勢緊迫化に伴うリスク回避的な円買いと人種差別問題を巡るトランプ大統領発言を受けた米政権運営不安からのドル売りが活発化し、ドル円は一時108円台半ばまで下落。足元も109円台前半で推移している。

今後当面は円高圧力の強い状況が続くそう。北朝鮮情勢はこのまま沈静化するとは見込まれず、たびたび緊迫化するだろう。また、米国は9月末頃に債務上限と来年度予算成立の期限を控えるが、政治が混迷を深める中で時間切れへの警戒感がドル売り圧力になる。FRBは9月に資産縮小を決定するとみられるが、市場ではほぼ織り込み済みであり、影響は限られるだろう。ただし、その後10月には市場が転換点を迎え、円安ドル高の再開が予想される。米経済が堅調に推移し、12月利上げ観測が高まることでドル高圧力が強まるだろう。また、欧州やカナダなどでの金融政策正常化に向けた動きが、日本の金融政策の周回遅れ感を際立たせることも円安をサポートする。3か月後の水準は114円前後と見込んでいる。

ユーロ円も、8月に入って下落し、足元は128円台半ばにある。リスク回避的な円買いに加え、ECB議事要旨でユーロ高への懸念が明らかになったためだ。ただし、秋にはECBによる量的緩和縮小が議論される予定であり、9月以降は日欧金融政策の方向性の違いが意識されることで、ユーロ買いが優勢になりそう。3か月後の水準は132円前後と予想している。

長期金利は、8月に入ってリスク回避的な債券買いで低下し、足元は0.04%付近にある。今後もしばらく低下圧力の強い状況が続くものの、日銀によるオペ減額への警戒から低下余地は限定的。10月以降は、12月利上げ観測に伴う米金利上昇を受けて、上昇圧力が波及する可能性が高い。3か月後は0.1%をやや下回る水準を予想している。

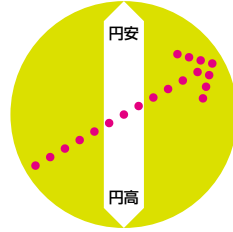


シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp
 1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

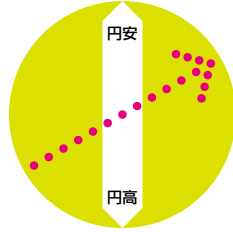


Market Karte

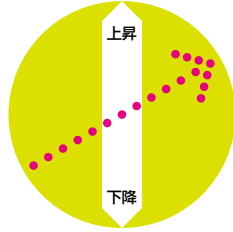
September 2017



ドル円・3か月後の見通し

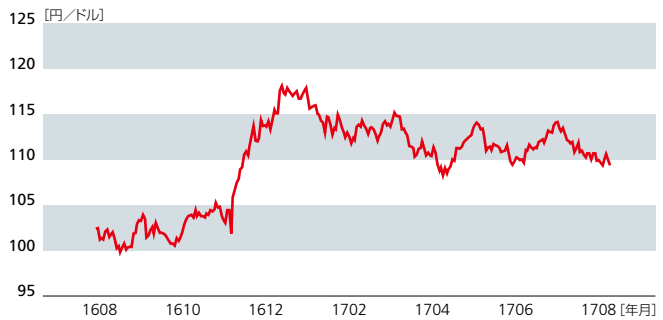


ユーロ円・3か月後の見通し

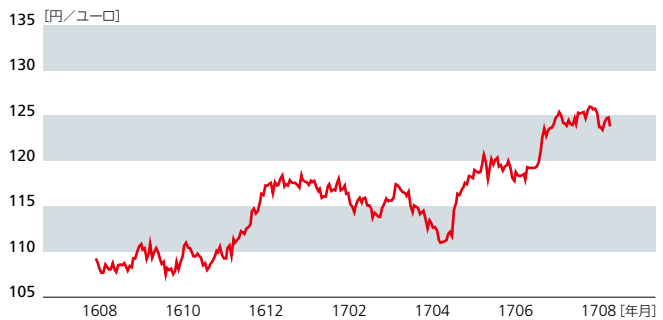


長期金利・3か月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

